

令和3年7月19日

成田空港記者会 各位
各報道機関 御中

富里市文化財保存活用地域計画の文化庁認定について

令和2年度に「富里市文化財保存活用地域計画」を作成しましたが、この度、文化審議会文化財分科会を経て、文化庁の認定を受けることになりました。

富里市においては、歴史文化の特徴を大きく4つにまとめ、関連文化財群として関連性の強い文化財をまとめ、文化財単体としてだけでなく、群としての保存と活用についても検討しています。

○関連文化財群

- ・大河なき赤土の原野 ー茫漠たる台地と小支谷ー
- ・もうひとつの生業 ー馬産の受容による新たな生業ー
- ・開墾と近代的大規模農場経営 ー農畜産業の近代化ー
- ・祈りと信仰 ー時代を越える人々の願いー

また観光といった新たな視点のひとつとして、国登録有形文化財「旧岩崎家末廣別邸」を中心とした観光拠点づくりなどを位置づけています。



国登録有形文化財旧岩崎家
末廣別邸主屋



市立図書館2階 郷土資料展示室

教育部生涯学習課

担当： 吉林

電話： 0476-93-7641

FAX： 0476-91-1020

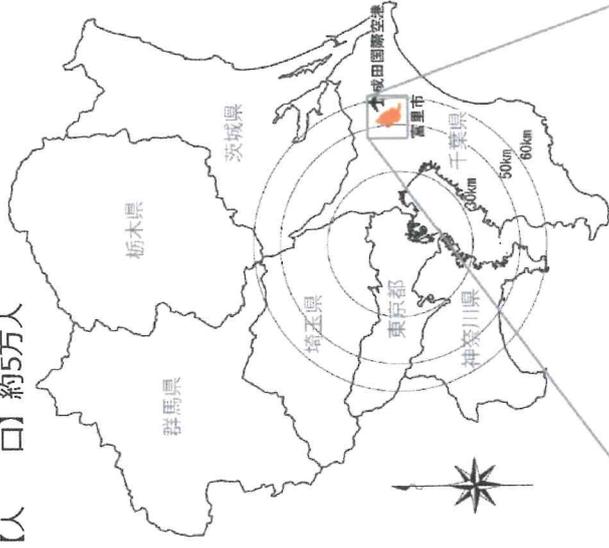
E-mail syakai-edu@city.tomisato.lg.jp

【送信枚数：送信票を含め4枚】



04 富里市文化財保存活用地域計画【千葉県】

【計画期間】 令和3～13年度（11年間）
 【面積】 約54 km²
 【人口】 約5万人



歴史文化の特徴

○台地形と集落の形成

大河のない市域では根本名川、高崎川の川の流れでできあがった小支谷や舌状台地などに古代の集落が形成され、特徴的な石器や土器が出土している。

○馬産の受容による新たな生業

低地が少なく、火山灰土壌という地質的要因から稲作はおろか、樹木の生育もままならぬ状況であった。このような状況を大きく変えたのが馬産であり、馬産の需要は中世に台頭してくる千葉氏といった武士団の形成を促す基盤となった。

○開墾と近代的大規模農場経営

明治維新後、政府は放牧地の開墾を推し進めた。明治8年には下総牧羊場が開設され、日本で最初の近代牧畜が行われるようになり、その後末廣農場が誕生した。また、市域からは数多くの競走馬も生み出されている。

○祈りと信仰

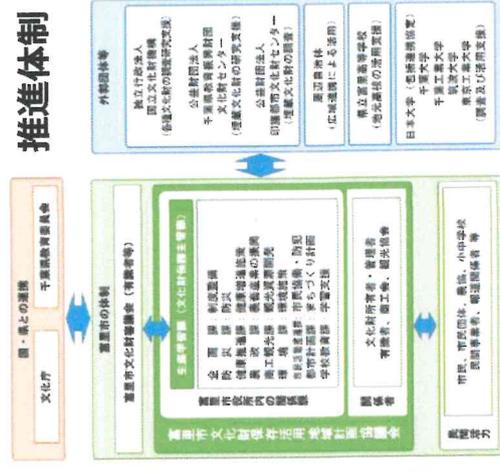
本市域は開墾に伴う移民が多いという特徴から、自らの出身地の行事や文化が生活や信仰に取り入れられている。そのため、その人々が神仏を祀り敬った有形無形の文化資源や、周辺市町では見られない行事が残されている。

指定等文化財の件数

種別	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	0	0	0	3	3
	絵画	0	0	0	0	0
	工芸品	0	1	14	0	15
	書画・文書	0	0	0	0	0
	考古資料	0	0	0	0	0
無形文化財	歴史資料	0	0	0	0	0
	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0
民俗文化財	無形の民俗文化財	0	0	3	0	3
	逸話（逸事）	0	2	4	0	6
記念物	名勝地	0	0	0	0	0
	動植物、地産、鉱物（天然記念物）	0	0	3	0	3
	合計	0	3	24	3	30

- 指定等文化財は、30件
- 未指定文化財は、6, 340件把握

推進体制



富里市が目指す文化財保護のあるべき姿

①富里の歴史を理解する上で重要な指定等文化財の確実な保存、②地域と密接に係る文化資源の再評価と活用、③文化資源の観光資源としての積極的な活用

文化財の保存・活用に関する課題

①文化資源の把握調査の課題

- 文化資源の把握に偏りがあることから、それを是正することが必要
- 文化資源の把握調査の担い手や、分野別の専門職員が不足していることから、体制の整備が必要等

②文化資源の保存にかかわる課題

- 保存継承を担う人材の減少や高齢化
- 自然災害への対策や防災・減災のための仕組みづくり
- 適切な管理・補修等に要する費用の調達が必要等

③文化資源の活用にかかわる課題

- 市民等への普及啓発が不十分
- 観光等、地域活性化への活用不足
- 指定文化財の公開活用の遅れ
- 普及啓発のコンテンツの作成等

文化財の保存・活用に関する基本方針

基本方針

- 方針Ⅰ みんなで守る富里の文化資源（「価値」の保存）価値の把握、価値の向上、価値の管理、価値の継承、価値の評価、価値の共有
- 方針Ⅱ みんなが触れる富里の文化資源（「資源」の活用）資源の周知、資源の活用、資源の評価、資源の共有

文化財の保存・活用に関する措置の例

旧岩崎家末廣別邸及び周辺整備

国登録有形文化財建造物である「旧岩崎家末廣別邸」を一般公開するための環境整備と隣接する市有地におけるガйдダンス機能や便益機能を有する施設整備を行い、文化財活用の促進と賑わい交流拠点の創出を目指す。



■ 取組主体: 行政 他
■ 計画期間: R4～12年度

方針Ⅰ

無形民俗文化財等の記録作成

記録作成の措置が講ぜられていない年中行事や祭礼について映像記録の作成、デジタル化を行うことで、地域で親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた人々の叡智を記録として市民で共有する取組みを推進する。



■ 取組主体: 行政 他
■ 計画期間: R4～12年度

方針Ⅰ

学校教育との連携

郷土愛を育む過程において、学校との連携は必要不可欠である。副読本の作成・校正に対する積極的協力や出前授業を円滑に行えるような体制を整えると同時に、民具等の本物を活用した授業の支援等について、学校現場と連携を図りながら推進する。



■ 取組主体: 行政 他
■ 計画期間: R4～12年度

方針Ⅱ

富里市文化財保存活用地域計画【千葉県】

成田国際空港からインバウンド観光客を取り込むため、「旧岩崎家末廣別邸」を核とした観光拠点形成を図り、市内各所に回遊できるルートを構築する。また、各関連文化財群において、地域の歴史文化を理解してもらうため、市民向けの展示や体験イベント等も行う。

文化資源の面的な活用のイメージ

【関連文化財群】

祈りと信仰 - 時代を越える人々の願い-



- <ストーリー>
○ 庶民が願った幸せ

【措置の例】

- ・無形の民俗文化財等の記録作成の推進
- ・公共用地を起点としたルート設定
- ・「さとバス」を活用したルート設定

【関連文化財群】

大河なき赤土の原野
- 茫漠たる台地と小支谷 -

- <ストーリー>

- 特徴的な石器群と縄文土器
- 古墳時代に遡る集落と牧

【措置の例】

- ・案内看板等の整備
- ・パンフレットの作成
- ・郷土資料展示の充実



【関連文化財群】

もうひとつの生業
- 馬産の受容による新たな生業 -

- <ストーリー>

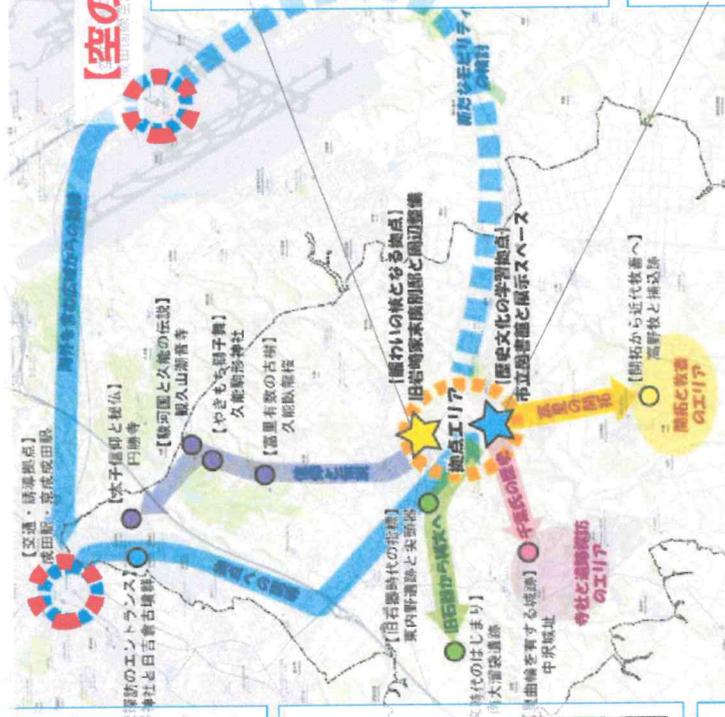
- 初期荘園と馬産（武士の成立）
- 幕府御軽牧と野付村
- 武士と農民の狭間

【措置の例】

- ・ネガ等のデジタル化
- ・体験イベントの開催
- ・120万歩ウォーキングとの連携



【交通・誘導拠点】 成田駅・京成成田駅



【空の玄関口】 成田国際空港

【賑わいの核となる拠点】

★ 旧岩崎家末廣別邸及び周辺整備

国登録有形文化財建造物である「旧岩崎家末廣別邸」を一般公開するための環境整備と隣接する市有地におけるガイダンス機能や便益機能を有する施設整備を行い、文化財活用の促進と賑わい交流拠点の創出を目指す。



【歴史文化の学習拠点】

★ 図書館内の郷土資料展示室との連携事業

関連文化財群や記録保存の措置が講じられた埋蔵文化財包蔵地の調査記録や出土遺物について展示を行うため、市立図書館の2階を郷土資料展示室へと整備する。



【関連文化財群】 開墾と近代的大規模農場経営 - 農畜産業の近代化 -

- <ストーリー>

- 入植者の吾難
- 近代牧畜の発祥
- 岩崎家の末廣農場と吉川家の植林計画

【措置の例】

- ・「富里の近代化について知ろう」の実施
- ・案内看板等の整備
- ・情報発信の多言語化

富里市文化財保存活用地域計画【千葉県】